

英語科における習得・活用を意図した授業のあり方

小 川 正 清

英語科 齊 藤 亜希子

端 崎 圭 一

1. 英語科における習得・活用を意図した授業について

今年度から本校では、新指導要領に基づく「習得・活用」を意図した授業実践を研究の主題に据えることとなり、英語科では、はじめに「習得」と「活用」というそれぞれの言葉の持つ意味、定義を考え、以下のようにまとめた。

習得とは、授業において語彙、文法事項などのさまざまな知識を学び、繰り返しによりその学習内容を定着させていくこととした。知識を学んで終わるのではなく、その学習を繰り返すことができるようなスパイラルの構造を持った指導により学習事項を定着させていくことが重要である、ということを確認した。

また、活用とは、さまざまな言語活動を行う際に、既習の基礎・基本的な事項を用いて、場面・心情などに合うように考えながら表現することとした。

そして、授業で行われる言語活動を、本校英語科では以下の3つの段階に分けて考えていくこととした。

段階1：習得に重きを置いた活動

段階2：習得と活用の両方が織り込まれた活動

段階3：活用に重きを置いた活動

本来、上記のように習得や活用といったものにそれぞれ区切りをつける必要性は感じられないかもしれない。しかしながら、本校では習得と活用の段階を設定することによって授業のねらいを明確に持ち、授業者が生徒にどのような能力をつけさせていくのかを意識しながら実践を行うことは有意義であると考えた。

そこでまず、過去に行ってきたさまざまな授業実践を、習得・活用という観点で見直した。言い換えれば上記の段階のうち1～3のどれに該当するのか、という位置づけの確認を行った。その確認が今後の充実した、ねらいの明確な授業実践につながると考えたためである。そのうち具体的な例をいくつか以下に示す。

◆習得を意図した実践

- ・パターン・プラクティス ・ビンゴ ・小テスト ・スペリングコンテスト ・Quick Q & A(決まった質問に対して Quick Response でパートナーが答える) など

◆活用を意図した実践

- ・Small Talk (2人である話題について、2～3分くらい、フリートークを行う)
- ・小説(リーダーズなど)を読む ・教科書の文にストーリーを足して英語で書く
- ・英語でまとめた文章を書く など

我々が実践を持ち寄り、協議しながら感じたことは以下の4つである。

- ・何をねらいとして行っている実践なのか、その実践が次にどのようなつながりを持つかが不明確なものがある。
- ・段階3の活動実践が少ない。
- ・段階2の実践でも、かなり段階1に寄ったものがある。
- ・場面の設定の仕方、条件によっては活用を意図しているつもりでも、単に習得の活動(段階1)になっているものがある。

授業者としては、習得の段階から活用の段階に至るまでの指導の流れを、今まで以上に十分に考慮していくべきであり、活用を意識した授業を行っていくには、ねらいと、場面や条件の設定をより明確にしなければいけない、という認識に至った。そして、そのような実践を積み重ねていくことで、新学習指導要領にも記載があるように、学習者に十分な習得をさせ、それらを活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力等を身につけさせていくことができると考えている。

なお、本校英語科としては上記のさまざまな力のうち、「表現力」をつけることに重点を置きたいと考えている。そのために基礎・基本的な事項を習得し、それらをそのまま用いるのではなく自身の考えや心情を込め場面に合うように考えながら表現できるよう、活用させられるような授業実践を進めていかなければいけない。したがって授業者は実際の場面を十分に想定した、広がりのある活動を用意する必要がある。

そのような中で特に留意が必要なのは、前述したように、実践しようとしていることが真に活用する力を育成しているのかを検討することである。言語活動にはまず活動のねらいがあり、それに対する場面設定、活動の流れが示されていくのだが、その活動の中で、生徒達が習得した事項をそのまま出すだけで活動が終わってしまえば、それは習得の域を出ない活動だと言える。それは我々で言うところの「段階1」の活動と位置づけることになる。そうではなく、活動の中で、いかに場面や状況の変化に応じて、自分の考えや気持ちを表現できるかが活用することなのであり、そのような状況が必然的に発生する仕組みを設定しなければいけない。その結果、生徒個々の答えや結果は千差万別であり、生徒は言語活動を通して個々に表現力を身につけるであろう。また、発表などを通して授業の中で全体に個の考え、思いをフィードバックさせ、共に学ぶことで新たな表現力が身につくものと考えている。

2. 英語科における習得・活用に関する本校生徒の実態

(1) 「習得」に関わる本校生徒の実態

基礎的な語彙や文法事項などについては、家庭学習などの習慣がある程度ついていることもあり、ある程度身につけているものと思われる。知識を問うテスト問題など、答えのはっきり決まっているものに対しては抵抗なく学習を進めることができる生徒が多い。しかしながら基礎的事項の習得が不十分のため、英語を苦手とする生徒もいる。その結果習得に時間を要し、「授業のペースが速い」「復習にとても時間がかかる」などと感じ、中には「英語は嫌い」「面倒だ」などと思う生徒もいる。そのため、それらの生徒は、授業中には何らかの形で支援が必要となる。

(2) 「活用」に関わる本校生徒の実態

本校において生徒に活用する力を育む実践が十分になされてきたか否か、ということを考えるならば、まだ充分とは言えない。しかしながら、前述の Small Talk などのようにいくつかの活動においては、生徒達の特徴の一部が見えてきた。それは、使用する言語や文法事項に制限が少なく、accuracy をあまり求められないものに関しては、意欲的に楽しんで取り組んでいる。そういったケースでは活用ができているように思われる。

一方、制限があり、accuracy を求められたりするような場面においては、緊張や自信のなさで声が小さくなったり、無難な答えに終始して話すことが少なくなったりする。そのため、自分の考えや思いを十分に相手に伝え切れないということが起きてしまう。そういったケースでは十分に活用ができていない。それらを受けて、これからの授業実践で習得した知識を実際の場面で使用できるよう、どう結びつけてスムーズな output につなげていくかということに留意しながら今年度の実践に取り組んだ。

3. 英語科における習得・活用を意図した授業実践例

(1) 1年生の実践

1 学年の現段階（7月まで）は、十分な習得に力を注ぐ時期であり、なかなか活用する力を育成する実践は豊富に盛り込むことはできない。しかしながら、習得を主な目的に据えながら、わずかながらでも活用する力を育むために、1 学期のまとめとして、相手に対して自己紹介をしながらいろいろと質問をして、お互いのことを知り合うという活動を行った。

① 授業の流れ

ア 活動のねらい確認する。

- ・今までに習った英語を少しでも多く使えるように、実際の場面に合うように話をする。
- ・英語を正しく話すことより、細かいミスは気にしないでどんどん話し、お互いに理解し合う。

イ ワークシートを配布し、活動の流れを説明する。(p.115 資料①, p.116 資料② 参照)

- ・今、アメリカの中学校に日本人が転校してきて、帰りのバス停で男の子と女の子がばったり出会う、という場面で、お互いのことを知りたい、伝えたいという設定で会話を行う。(4 クラス中 2 クラスでは男子が日本人で女子がアメリカ人、もう 2 クラスでは男女が逆の立場で行った。)

ウ 自分のことについて何を話すか、相手に何を聞くかを考える。

- ・条件は、[1] 1 人10分以内で、想定される会話の内容を考える。[2] 教科書、ビンゴブック、授業で使用したプリントは見ても良い。[3] 男子は良太くん(ジョンくん)、女子はジェニーさん(えみさん)という架空の人物になりきって考える、という 3 点とした。特に [3] に関して、互いに架空の人物になりきることにしたのは、①日本人役の生徒が本当に自分の事を言う、すでにクラスメイトはその生徒のことを知っていて、質問をする必然性がないからであり、②男女の条件を似たようなレベルにしておきたかったからである。また、授業者として留意したのは、教えすぎないようにしたことである。条件を細かく設定したり、こういう文を言うという指定をしたりすることは、活動そのものが今まで習ったことの単なる復習に終わってしまう危険性があると考えた。もう一つ留意したのは、こういう内容を盛り込むと良い、というようなことをあえて直接言わず、我慢してヒントを出すだけにとどめた、ということである。

エ 設定にしたがって会話をする。

- ・事前に行ったこと

[1] より親しくなるために 2 分間、少しでも会話を弾ませるという努力目標を確認した。

[2] この段階では、会話が十分に続かないことが大いに予測されたので、少しでも長く続くよう努力することを伝え、会話が途切れた時、Well… や Let me see… などを入れ、考える時間を取って会話をつなぐよう、練習した。

オ 生徒同士の会話を全体で聞く。

- ・スムーズに会話ができた生徒に、全体の前でもう一度会話をしてもらった。それを聞いて、自分では思いつかなかった表現を学んだり、会話に詰まった時にどのような言い方があるかをクラス全体で考え、確認することで次の会話へのヒントを得た。
- ・また、会話の中で、話す表現以外に大切なこと（アイコンタクトやジェスチャー、はっきりとした発音など）を確認した。

カ もう一度、相手を変えて同じ場面設定で会話にチャレンジする。

- ・1 回目よりもコツや要領を得ており、スムーズに会話をできるようになるであろうというねらいか

ら、複数回（飽きが来ない程度に）同じチャンスを与えることは有意義であると考えた。

キ 授業の振り返りを行う。

- ・ 所定のプリントにさまざまなことを書いて、目標が達成されたかを振り返ることができるように、また次回このような活動があった時のために反省点や改善点を整頓することができるように、簡単なアンケート形式で振り返りを行った。

② 考察（成果と課題）

- ・ 今回の活動で自分のことを話す時に、今までに習ったとおりに I like English. というだけで終わっていたら、活用した、とは言いがたく、例えばそのあとに教科書で習った、It's difficult, but it's interesting. などと言いつづけることができるようになることや、場面設定に合うように、既習の the same ~ という表現を用いて We are in the same class. などと言えるようになることで、多少なりとも活用の領域に入っていくものと思われ、そういった表現が見られたことは成果であった。その際に得られる喜びを大切にするために、正しい、タイミングの良い、時として多少大げさになってもよいので（不自然ではいけないが）評価をすることは大切である。
- ・ 「架空の人物になりきる」という設定は、制限を減らすという意味と、活動に広がりを持たせるという2つの意味で今回の活動においてはまずまず有効であったと考える。「アメリカ人気分になれて、楽しかった」と振り返り用紙に書いている生徒もおり、今後の活動で、外国人という立場を取らせることで、生徒にとってその国についての理解を深める機会にもなりうるのだと気付かされた。（p.116 資料③ 参照）
- ・ ある特定の場面を設定した活動を初めて行ったので、なかなか上手く会話を続けられなかった生徒が多かった。その結果、何人かの slow learners が「英語ってやっぱり難しい。」と再認識してしまったことは、授業者として大いに反省すべきである。ただ、その中で「次やる時はもっと英語を頭に入れておかないといけない。」「難しかったけれど、楽しかったしまたやりたい。」という感想もあり、全体としては意欲の低下は免れたようであった。ただ、気をつけなければいけないのは、何が「楽しかった」のかを知っておくことである。「何となく会話が続いておもしろおかしかった。」ということでは活用する力は育成されないのので、今後の習得と活用を意図した授業実践の連続で「英語が口をついて出てきて、相手の言うことも分かったのでうれしかった」という意味での楽しさ、喜びを感じさせなければならない。
- ・ 英語はできても英会話が全然できなかった、思ったよりも全然しゃべれなかった、という生徒が少なからずいたことが興味深かった。このことは、日々の授業において習得した英語を活用、表現させるような場面を多く設けることができず、力をつけてやれていないということであり、9月以降の実践を考える時に、活動に対する明確なねらいを持つことと、活用させるような場面や条件の設定をよく考えて行うことを常に留意しておかなくてはならない。
- ・ 内容が乏しい会話になってしまうペアもあり、習得の徹底と、活用に結びつけるような言語活動を工夫していく必要がある。

(2) 2年生の実践

① 習得と活用の両方が織り込まれた活動を中心に

2年生では、授業で行われる言語活動の「段階2：習得と活用の両方が織り込まれた活動」の1つとしてタスク活動（高島 2000）を模索していくこととした。

② 習得と活用の両方が織り込まれた活動（タスク活動）の実際

[1] タスク活動（7月実施）までの流れ

タスク活動はよりオーセンティックな場面で、今までに学習した内容を実際に使用する機会を生徒に提供するが、決まった言語材料を使用する場面が意図的に組み込まれているので、下記のように文法事項の理解と習得の後の活動となる。

1. 通常の教科書を使った文法事項の理解

4 月	1 年の復習
5 月	Program 1 過去形（一般動詞・be 動詞）
6 月	Program 2 過去進行形, There is(are) ～, When ～, ….

2. 文法事項の反復練習（ドリルやパターンプラクティスなど）

各ページ、各文法事項、各プログラム後に適宜繰り返されるドリルなど

3. タスク活動

これは基礎・基本を完全に身に付けていなければタスク活動をできないということではない。タスク活動のオーセンティックな場面で実際にその言語材料を使用しなければならない状況を体験することで、その言語材料を使用する必要感を感じることで基礎・基本の定着につながると考えられる。

[2] タスク活動（ワークシート）を考える際に気をつけたこと

場面は生徒が興味を持つ実際にありそうな場面にすること：男の子と女の子の待ち合わせの場面
最近習った言語材料を使用する必要性があること：過去形と過去進行形, How about ?, Let's ～.
ペアのどちらから話始めるかを明らかにすること：～から話し始めると明記

[3] タスク活動の流れ〔1時間〕

ア 活動のねらいを確認する。

- ・ 今までで学習した英語を総合的に用いて活動し、英語を実際に使用することが目的である。自然な英語の会話になるように、習ったこと全てを用いて表現する。
- ・ どんどん失敗しながら、自分のことを相手になんとか伝え、相手のことを理解しようと努力する。
- ・ 自然な会話にするために、ワークシートに書いてない情報も自分で考えて判断して付け加える。

イ ワークシートを黙読する。(p.114 資料④ 参照)

※ 配布する前にペアにワークシートを見せないことを確認する。

ウ 活動内容の確認・やり方の説明をする。

- ・ 活動は男女のペアです。
- ・ 最初は電話の会話で次に実際に会っての会話である。
電話の会話では、背中合わせで会話をする。
次の日になってからの会話は、相手の顔を見ながら会話をする。
- ・ 会話を進めるペースは自分たちのペースでよい。
早く会話をするのが目的ではなく、今までに習った英語を全て用いて、二人で自然な会話をするのが目的である。

エ 活動の中で用いると予想される新出単語や重要語句の確認

look for , wait for, Hello. This is ~ . (電話表現の確認)

オ 事前に何ペアかに前でデモンストレーションをしてもらうことを伝える。

カ 男女ペアによる活動

(活動中の教師の支援上の注意点)

※活動中は、自然な会話をしているペア、過去形・過去進行形を正確に用いているペア、興味深い内容を付け加えているペアなどを見つけるようにする。

※会話が続かずに困っているペアにはジェスチャーや単語1つでも構わないので伝えようとするように励ます。

※過去進行形の確認やどの部分を過去進行形で言えるかなどのヒントを与えながら支援する。

キ 生徒によるデモンストレーションを聞く。

良かったところ・使える表現を見つける。

デモンストレーション生徒の英語

Hello.

Hello. What were you doing at 4?

Who spent with you?

I playing game.

I wait for you for an hour.

OK. Let's.

Where were you?

It's in Forus.

Shall we movie?

What movie is it?

How about transpormer?

How about next Sunday

I choice this for you.

Thank you.

ク デモンストレーションのフィードバックをする

・表現を確認する。間違いを訂正する。間違いよりも良い表現を取り上げる。

最初のクラスでのフィードバック

What were you doing then? (「～していた」の言い方の確認)

Sure. (を使うと自然な英語になる)

2 番目のクラスでのフィードバック

Where were you? (「いた」は過去形の were を使うこと)

I waited for you for an hour when you didn't come. (when を使って「～のとき」を言うこと)

How about "Transformers"? (How about ～? の簡単な英語で言えること)

- ・臨機応変さが必要。創造力を使ってどんどんおもしろくしていく。
- ・聞くときの姿勢（発表者を見る）
- ・ジェスチャーする。
- ・相手を見て話せるようにする。

ケ 振り返りシートを書く。(p.118 資料⑤ 参照)

生徒の感想より

- ・意外と言えた。
- ・自分の成長を感じられた。
- ・言えるようになりたい。
- ・文で言えない。
- ・過去進行形を使うのを忘れた。
- ・Sure. を使うと自然な英語になる。
- ・簡単な英語で言うことが大事。

[4] 考察（成果と課題）

成果

振り返りシートから

- ・タスク活動を楽しんでいる生徒が多かった。これは相手の考えを理解し、自分の考えを伝えるというコミュニケーションの楽しさを英語で体験できたからだと考えられる。
- ・英語で考えを伝えられない自分を実感し、伝えるようになりたいという思いを強くしていた。これは、英語を学習するモチベーションの向上につながると考えられる。

課題

- ・自分の考えを単語 1 語や 2 語のレベルからでも、間違いを恐れずに話すことが当たり前の授業づくりをする。そのためには、自信を持って発話までの時間を短縮できるように、ドリルからタスク活動までに難易度の低いコミュニケーション活動を入れるなどしたい。また、なんとか最後までコミュニケーションを続けるために、例えば、「怒りは収まったよ。」は“I am OK now.”や“I am not angry now.”など簡単な英語でパラフレーズできる力をつける必要がある。そして何よりもタスク活動に慣れるために活動の機会を増やしたい。
- ・タスク活動で生徒が発する英語はさまざまであり、決まった活動を機械的に繰り返すドリルなどとは違い、それだけ活動自体が生徒によるところが多い。それは生徒たちに意欲がなければ、授業自体に締まりがなく、ただ自由に話ができるあまり意味のない時間になってしまう危険性がある。しかしながら、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために必要な活動だと考えられる。このタスク活動を機能させるためには授業規律が必要不可欠である。

- ・タスク活動をやりっぱなしの活動にしないためにフィードバックを有意義なものにする。そのために、生徒たちにデモンストレーションをする生徒の良さを発見し、そこから学ぶという姿勢を身につけさせる。また、教師は生徒の活動中やデモンストレーションの際に誰が何をどのように言ったか、どこが良かったかなどをメモし、生徒が教師からではなく生徒たち自身からでた表現から学べるようにする。
- ・フィードバックでは意図的に使用するように仕組んだ言語材料以外の優れた表現を取り上げたい。

全体に還元できなかった表現例 Who spent time with you?

- ・タスク活動が最終的な目標ではなく、3年生の実践例にあるような言語材料や教科書の題材から離れた活動やアドリブ的に行う活動といったよりオーセンティックな活動をできるようになることが、本当のコミュニケーション能力の育成につながると考える。
- ・3年生になってから言語材料や教科書の題材から離れた活動をするのではなく、各学年折に触れて行うべきである。
- ・より高いコミュニケーション能力をつけるために、3つの段階の活動をスパイラルに行う必要がある。

【参考文献】

高島英幸編著 2000 実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導 大修館書店

高島英幸編著 2005 文法項目別 英語のタスク活動とタスクー34の実践と評価 大修館書店

(3) 3年生の実践

① 活用を念頭に置いた活動の4つのパターン

3年生の授業を行う中で、活用に相当すると考える活動を以下のような4つの活動に整理して実践した。

[1] Small Talk

2年生の2月頃から始め、3年終了まで行う予定の活動である。毎授業において、教師が提示する一つのトピックについて、生徒同士で2～3分間継続的に話ができることを目標とする。この活動では、トピックを除いてはターゲットになる英語表現や会話の発話内容に何らの規制がなく、生徒は既得の知識を活用して自由に話すことになる。トピックは、“My family”や“My favorite music”など生徒が取り組みやすいものを与えるように配慮している。この活動は、ペアを換えて2回行う。その都度、自己評価も行う。



Small Talk 中の生徒

[2] 言語材料や教科書の題材に関連づけた活動

ここでは、道案内の授業で行った実践例を簡単に紹介する。

まず、題材として扱った道案内は、地下鉄などの鉄道を使った道案内で、“How can I get to Shibuya?”のような型で始まる道案内である。応答として“Take the Yamanote Line.”や“It is the third stop from here.”などの言い方も学習した。

このような活動で学習したことは、鉄道や地下鉄が発達している大都会では直ぐに活用できる機会があると思われるが、地下鉄がない金沢のような地方都市ではそうはいかない。生徒たちにとってもあまりピンとこない活動かもしれない。そこで、この活動の仕上げとして、金沢の有名な観光地の一つ「忍者寺」を取り上げ、そこへの道案内を生徒たちにチャレンジしてもらうことにした。「忍者寺」は、

本校からさほど遠くない場所にある。

活動は、“How can I get to Ninjya-dera?” で始めるのであるが、答える時は、練習した“You can get there by subway.”や“Take the Yamanote Line.”は使えない。乗り物はバスになるし、「**線」とは普通言わない。生徒たちは、どのように言うかを今まで学習したことから探らなければならない状況になったわけである。こうした類の活動の積み重ねが、次の③で述べる活動の基礎となると考える。

[3] 言語材料や教科書の題材から独立した活動（投げ込み教材として行った活動）

実践したのは、「外資系会社の集団面接」という設定の活動である。詳細については、②以降で詳しく述べることにする。

[4] アドリブ的に行う活動

以下の活動は、計画的に行える類のものではなく、教師が授業の流れを見ながら臨機応変に入れる活動である。毎授業で行えるものではないが、生徒の知識を活性化（活用）させるという意味では、時折、入れていきたい活動であると考え。ここに例として挙げる活動は、生徒がA L Tに出した“Guess Who!”の活動の中でアドリブ的に入れた活動である。

まず、生徒は、次のような4つの質問を考えA L Tに出題した。

1. He is a teacher.
2. He teaches English.
3. He teaches us.
- 4-1. He is in this classroom.

想定していた答えはJTE (Mr. Hashizaki) であるが、生徒は、JTEが教室にいることを前提に4番目の質問を考えていた。しかし、2番目のヒントを出した段階で、突然、JTEは廊下に出て教室内にいなかった。そうすることで、4番目のヒントがそのままでは使えなくなった。生徒は大変に戸惑ったが、その問題を機転を利かせて見事に乗り越えた。生徒がとっさに言い直した文は、以下の通りである。

- 4-2. He was in this classroom a few minutes ago.

② 言語材料や題材から独立した活動（「外資系会社の集団面接」）

[1] 活動の趣旨

新学習指導要領の改訂の趣旨には、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成が謳われているが、そのためには、当然、4技能を統合的に活用できる活動を考えなければならない。それを模索していた時に、『「活用型」学習をどう進めるか』（浅沼 茂編 教育開発研究所）の中にある「オーセンティック（authentic）」についての文章に遭遇した。以下、その部分を引用する。

オーセンティック（authentic）とは「本物の／真正の」という意味を表す言葉である。ここには、従来型のペーパーテストを軸とする学習では「真の学力」は育たないという含意があるが、このことは同時に次のことを意味する。つまり、このオーセンティックという形容詞は、大人が社会生活において取り組む「本物の」課題解決場面にできるだけ近い学習環境を子どもに与えることで、そうした「本物の」生活場面で求められる資質・能力を育てようという理念を表現するものだということである。（p.31, 下線は本校英語科）

このオーセンティックの定義を受け、模索中の活動には、「本物の」課題解決場面にできるだけ近い学習環境を取り入れることにした。また、「本物の」課題解決場面では、ターゲットとなる基本文や発話内容が教師によって規制されるのではなく、生徒が自ら考え判断した表現を用いさせることが理想ではないかと考えた。そこで、この活動を、small talk と同様にターゲットになる英語表現や発話内容に規制を設けない活動とした。教師はsmall talk でトピックを提示したように、活動の大きな枠組みを提示するにとどめた。その枠組みが、外資系会社の集団面接ということである。

[2]「外資系会社の集団面接」活動の流れ

この活動を計画した当初は、3時間で行う予定であった。しかしながら、実際は、1時間目に予定した活動に2時間を要したことから全体で4時間の活動になった。以下は、当初計画した3時間での報告であることを承知していただきたい。

[1時間目の活動の流れ]

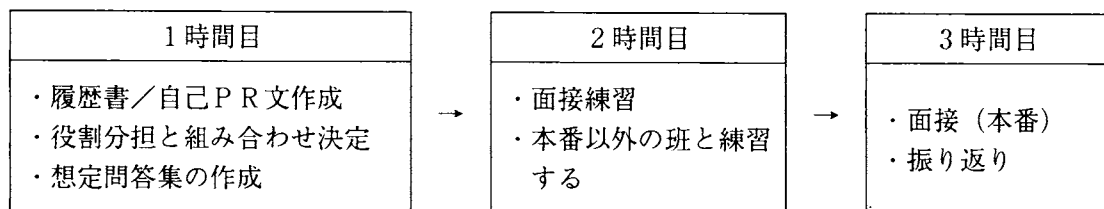
ア. 活動のねらいを確認する。

確認することは次の通り。

- ・今まで学習した英語を総合的に用いた活動である。よって、「不定詞」「現在完了」「現在進行形」など、一つ一つの文法項目の練習ではなく、習ったこと全てから、何を用いて表現したらよいのかを自分たちで考え、表現し、相手の話に応答するのがねらいである。
- ・英語学習は、近い将来、社会に出たときに、英語を用いて何かを相手に伝えたり何かをゲットしたりしていくことがゴールである。そのために、中学校の「今」から、準備を整え、チャレンジ精神を持って活動していくこと。

イ. 活動内容を確認する。

- ・今日から3時間で、「面接にチャレンジしよう」という活動に取り組む。役割として、ある英米の外資系会社の入社面接官と面接を受けに来た学生になる。面接官5人、面接を受けに来た学生5人という集団面接の想定である。一人の面接官がそれぞれの学生に2つの質問をする。学生はそれぞれの質問に答えなければならない。学生は、合計10の質問に答えることになる。面接後、個人を採用するのではなく、集団として、その班を採用するか否かを決定しすぐに連絡をする。
- ・会社が求めている人材は、英語ができるに越したことはないが、英語が未だ上手くなくても、入社後に社内の英語研修で英語力アップは可能。そこで面接では、英語を使おうとする姿勢を重点的に学生のやる気・意欲を見ること。
- ・3時間の予定は以下の通り。



ウ. 履歴書兼自己PR文を書く (p.119 資料⑥)。

- ・本番の面接に入る前の準備である。まず、全ての人が面接を受ける立場に立てるように、履歴書を含む自己PRを書く。分からないところは、班で協力し合いながら、時間内で書く。面接官役になる班も、この活動が面接時の質問を考えるヒントになる。見本を見ながら英語で書くことを原則とする。ただし、わからない場合は日本語で書くことを認める。

エ. 5人班になって活動開始。10分後に履歴書を回収する。

オ. 班ごとの役割分担を決める。

- ・まず、どのグループの人が面接官役になるのか、どのグループの人が学生役になるのかを決める。4つのグループが面接担当。4つのグループが学生担当になる。次に、グループ同士の組み合わせを決める。たとえば、面接担当が第1班で、学生が第7班という具合になる。(自己決定力育成のねらいから、この組み合わせ方法は、希望性を採用。決まらない場合は、くじ引きとする。)

カ. 「想定問答集」を作成する (p.119 資料⑦)。

- ・ワークシートを使用する。どちらのグループになっても、「想定問答集」を作成する。面接官役は、主に質問を考える。どんな質問を、どんな順番にするのかを班員全員で考える。どんな答えが返ってくるのかも考えておく。
- ・学生役は、主にどんな質問が来るかを想定し、班員全員がしっかり答えられるように話し合う。また、答えは、1文で返すのではなく、2文以上で答えるようにする。

※教師からの指導・支援

ア. 質問のレベル

- ・面接を考える際、何の会社であるかを決めておくことは重要であるが、現在までに習った英語では、特定の会社の専門的な仕事内容に関して、質問を考えることや答えることは、かなり難しいと思われる。ゲーム会社とかファッション会社とかの業種を決めることは自由であるが、質問は、学校で習った英語や基礎英語で学んだ英語でたずねるようにする。
- ・平易な英語で専門的な内容が伝えられそうなときは、果敢にチャレンジしてもよい。

イ. 質問を考えるヒント

- ・英語検定の3級以上の受験経験者は、面接のスタート時点でどんなことを聞かれたかを思い出してみる。
- ・面接では、まず、その人物の基本情報を確認するとよい。
【例】名前、年齢など
- ・次にその人の人物像に関する質問を考える。
【例】長所、好きなこと、夢など

〔2時間目の活動の流れ〕

2時間目は、金沢大学の加納幹雄教授および教育実習生の参観があったため、指導案を作成したので、それをそのまま掲載する。なお、学習活動の5番目の「面接官のセリフ」(p.120 資料⑧)と学習活動の6番目「今日の活動を振り返る」で使用したワークシートは、資料⑨(p.120)、資料⑩(p.121)として巻末に載せてある。

3年1組 英語科 学習指導案

平成21年6月18日(木)

第4限 場所(3-1教室)

指導者 端 崎 圭 一

(1) 題目 面接にチャレンジしよう!

(2) ねらい

- ・「ビンゴ」を通して、基礎基本的な知識、特に単語をしっかりと習得できる。

- ・“Small Talk”を通して、楽しく会話をしながら、獲得した知識を活用できる。
- ・「面接にチャレンジしよう！」を通して、4技能を統合的に活用しながらコミュニケーションをすることができる。

(3) 学習の展開

学習活動	教師の働きかけ、配慮事項	時間
1. 挨拶をする	・授業に集中するように、教師に顔を向けさせる。	1分
2. 日付を確認する		
3. BINGO をする	・準備ができているかどうかを確認する。 ・Warm-up として位置づけている活動であるが、楽しむだけでなく、BINGO 中の語の定着を図るために、BINGO 中の語の一つ用いて、生徒との短い会話をする。	6分
4. Small Talk をする	・今日のトピックは、“What do you like to do?”を扱う。teacher talk を交えながら、生徒にどんなことを、どんな風に話せばよいのかを例示した後に、取り組ませる。 ・欠席の生徒がいる場合は、指導者が相手をする。 ・本時から、二人の生徒がクラスの仲間の前で small talk を披露する。3年生になって初めて行う活動なので、かなり緊張すると思われるが、良い点を大いに評価して次への意欲を高めたい。	8分
5. 「面接にチャレンジしよう！」の練習をする ・元気な中卒の学生を募集する会社の面接試験 ・面接役5人、学生役5人の集団面接 ・4グループで実施する	・指示が複雑なので、日本語でしっかりと理解させた上で活動を進めていく。 ・今までの2時間の授業の流れを簡単に確認し、今日の活動を説明する。練習は2回行う。(黒板の模造紙) ・面接官役のセリフを全員で練習する。(黒板の模造紙) ・机と椅子の配置を示して移動させる。その後、面接官と学生役を席に着かせる。 ・各グループの面接官5人にA～Eの分担を決めさせる。一方、学生役は想定問答集を再度確認させ、発音などをチェックさせる。 ・1回目の練習を開始する。ただし、面接は途中で、タイマーの音が鳴ったら面接を終了し、面接官Cは、終了を告げ学生に退室してもらうように、指示を出しておく。 ・指導者はグループを巡回し、2回目の練習を行う前に与えるアドバイスをメモしておく。 ・アドバイスを与えて、2回目の練習を行わせる。	30分
6. 今日の活動を振り返る	・今日の活動で、どんなところを改善していきたいのかを書かせることで、次回の本番面接に備えさせる。	5分
7. 次時の予告		
8. 挨拶をする		

〔3時間目の活動の流れ〕

ア. 活動内容を確認する。

- ・今日は、「面接にチャレンジしよう」の本番である。ビデオ撮影がある。ひと組ずつ（10人ずつ）行う。

イ. 机を移動する。

ウ. 面接本番。

エ. 振り返りをする。

- ・ワークシートを用いて、活動を振り返る。

〔5〕 考察（成果と課題）

- ・まず、外資系会社の入社面接という場面設定での活動は、「本物の」課題解決場面に近いこともあってか、多くの生徒が、大変興味を持って取り組んだように思われる。これは、英語に関する知識を得ることが中心の活動ではなく、既習の英語を駆使しながら面接という活動を、する側受ける側としていかに成功させるのかということが目標の活動であったからだと考える。
- ・この活動は知識を得ることが中心ではないと述べたが、「生徒会」「委員会」は英語で何と言うのかとか、「会社に入ったら何したいと言いたいんだけど、会社に入るはどう言うの」などと、知識欲も旺盛な実態が見て取れた。活用をねらった活動が、活用にとどまらず、新たな知識習得にも密接につながることがわかった。
- ・この活動では、想定問答集を考えさせる時間を確保した。それは、面接という形式の中では、Small Talkのようにアドリブでは対話はできないと考えたからである。その結果、少し堅苦しい雰囲気になったように感じられ、一問一答から対話が広がらない様子も見られた。Small Talkのように、もっと活発なターンが行えるような仕組みが必要に感じた。
- ・この練習活動終了後、面接のモデルをビデオなどで事前に示すことができれば、もっと活発な質疑応答が行われたのではないかというアドバイスを加納教授からいただいた。生徒が経験している面接テストといえば、英語検定の二次試験での面接テストである。しかし、これとて全員が経験しているものではなく、ましてや、説明をしたものの今回の集団面接形式のイメージをどこまで共有させることができたかは怪しい。この種の活動を行うには、活動そのものが全生徒が容易にイメージできるものか、もしくは、そのためのモデリング提示が必要であると思われる。
- ・生徒が書いた振り返りを見ると、「日本語を使わなかった」「うまく言えた」「オリジナルな答えができた」など成果を肯定的に受け止めている生徒が半数いる一方で、自分の発音やイントネーションに課題を見出したり、聞かれた質問に対しての不適切な回答にあとで気づいたりしていることがわかった。こうした課題や気づきを、次の活動にいかにつなげていくかが重要であると考える。
- ・中学3年生にもなると学力差が当然生じてくる。面接といっても、slow learner にとっては、簡単な質問や回答しかできない。特に、学生役になった slow learner にとっては、想定をしなかった複雑な質問が来たときは、戸惑いを隠せない状態であった。「質問の意味が全く分らなかった」と振



最終面接の様子

り返る生徒もいた。一方、英語力がある生徒は、「(slow learnerにとって) ちょっと難しすぎたかな?」と振り返っている。こうした学力差をどのように埋めながら活動を充実させていくのかも課題である。

- ・上の課題に対する一つの答えが、ある生徒の振り返りに見られた。「今回はハッキリ発音ができていたと思うけど、やっぱり〇〇君の方が上手だった。それに最後の質問が(相手に)分からないと知って質問を変えたのはさすがだと思う。」この振り返りの場面では、ある面接官役の生徒が、相手が分からないと判断すると、理解してもらえる内容に英文を即座にパラフレーズしたのである。英語力のある生徒が、slow learnerに寄り添いながら、いろいろな表現で分かってもらおうと努力する。こうした心がけを持てるようになれば、英語力のある生徒は会話のストラテジーをさらに磨けるし、slow learnerも理解できた喜びを味わえる。こうしたところを高く評価していかなければいけないと感じた。
- ・今回は、外資系会社の面接を想定したが、こうした面接が現実になるとしても生徒たちにとっては7,8年先の出来事である。もっと現実に近い面接としては、高校入試の面接がある。もし、外国語コースを持つ高校の入試面接を想定していたら、質問も答えもさらにオーセンティックになったのかもしれない。この辺りについては、加納教授からもアドバイスはいただいていたのだが、入試という生徒にとってあまりにも切実な問題を授業の中に持ち込むことに躊躇した。しかしながら、これを実践していたらどうなっていたかには関心がある。

【参考文献】

- ジェーン・ウィリス著 2003「タスクが開く新しい英語教育」開隆堂
高島英幸編 2005「英語のタスク活動とタスク」大修館書店
大学英語教育学会学習ストラテジー研究会編 2006『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』大修館書店
無籐 隆・嶋野道弘編 2008「確かな学力の育成」ぎょうせい
浅沼 茂編 2008『「活用型」学習をどう進めるか』教育開発研究所
安彦忠彦編 2008『「活用力」を育てる授業の考え方と実践』図書文化

4. 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・活用を意図した授業を楽しんでいる生徒は3学年を通じて多かったように思われる。コミュニケーションの楽しさを体感することは、英語学習のモチベーションを向上させることにつながるということが分かったので、今後、習得を狙った活動を繰り返す行うとともに、このような活用を意図した授業実践を増やしていくべきである。
- ・活用を意図した授業は、必然的に広がりのある活動となることが多く、習得が十分なされている生徒にとっては自分の応用力を試す絶好の機会となり、また、周囲の優れた表現を聞いて学ぶことによって、より深く知的好奇心を満足させることのできる場と成り得た。
- ・既習の事項にプラスして、予想もしなかった優れたやりとりが生徒達から聞かれることがあった。その際、全体にフィードバックし、共有することでますます運用力や学習意欲が高まることもあり、ひいてはクラス全体のよりよい雰囲気作りにもなった。

(2) 課題

- ・基本事項の習得を図りながら活用を意図した活動を行っていくのだが、習得がうまくいっていない slow learner にとっては、活用がうまくできず、英語の難しさや苦手な意識を大きく感じてしまうことがしばしば起こった。そのようなことを少しでも減らすためにつまずきの予測や、それに応じた個別の支援、または生徒同士での教え合い、助け合いをできるような普段からの授業での雰囲気作りを継続していくことが不可欠となる。このことは3学年を通しての課題である。
- ・ねらいと場面や条件の設定の仕方によって生徒の活動は大きく変わり、活用の色合いが濃いものになったり、習得を主なねらいとしたものにもなる。生徒が自由にいろいろと考える中に、いかに上手く方向付けをしてやれるような条件を設定していくかということが活動の鍵となるので、授業案を考える際、熟慮しなくてはならない。
- ・活用を意図した授業には、優れたモデリングの提示が効果的である。難易度の高い授業になればなるほど、このモデリングという段階を省略したり、提示したモデルが充分なものでないと授業そのものが「難しい」ものになり、活用するための十分な場面を保障できなくなる恐れがある。ただし、モデリングから活用に至るまで段階的な指導も必要であると考ええる。
- ・活用する際、話している英語そのものを十分確認し、より accuracy の高いものにしていかなくてはいけない。また、発音やイントネーションに関しても同様であり、全体でのフィードバックの場面にせよ、個別に指導を行うにせよ、そのことでさらに確かな習得を目指さなくてはならない。

資料①

ワークシート A (男子用) class 1- no. name

今あなたは中学1年生で、アメリカの学校に転校してきた良太 (Ryota) くんです。1日目の今日が無事に終わり、これから帰るためにバスに乗ります。バス停に着いてみると、次のバスまで5分あります。そこへ、同じクラスの女の子がやってきました。もちろんアメリカ人です。名前は確か Jenny (ジェニー) だったと思います。目があったので、Hi. と話しかけました。Jenny も Hi. と返事をしてくれました。a big chance! なので、ここはぜひ友達になりたい、自分のことを知ってもらいたい、相手のことも知りたい、と思います。Jenny はどうやら君の次の言葉を待っているみたいですよ。

そこで、今日の課題。

「今まで習った英語で積極的に話し、少しでも話を弾ませよう。」

① まずはじめに (10分間)

- ・あなたには、架空の「良太くん」になってもらいます。自分がどんな人物であるか、役作りをして下さい。
- ・それをもとに、自分のことを積極的に話そう。
- ・自分のことを話すだけでは相手のことが分かりません。相手のことを尋ねる文も考えよう。

my name is Ryota

I'm from Japan

Japan is a nice country

I play basketball

What's do you play?
 { like
 have

I speak Japanese

Do you speak English?

How many pencil do you have?

I'm favorite team is ^{NBA} ~~セイルー~~ ^{セルティック}

Thank you very mach

ワークシート A (男子用)

- ② では、実際に会話をしてみよう。Hi. から始めて下さい。

- ③ 友達のを聞いて、参考になる (自分でも使ってみようという) 表現をメモしよう。

I'm a junior high school student in America

Do you have a sister?
 [brother?

Yes, I do I have sister.
 No, I don't I have brother.

I like game
 it is interesting!
 but it's difficult
 Pardon?
 Are you a my friend?

この活動をするときの注意点：とにかくその人になりきろう！！

このシートに書いてないことも自分で考えて、英語で付け加えよう！

英語で言い表せないことは、日本語自体を簡単なものに変えて、それを英文にしてみよう。

「何してたの？」

シートA（男の子）

あなたは大学1年生の男の子トムです。あなたは同級生のサラと友達です。

あなたはサラと映画「クッキーズ」を見る約束だったのに、サラと待ち合わせの4時に待ち合わせの映画館に行きませんでした。

①（あなたから電話をしよう。）

あなたはまだフォーラスにいます。実は、明日はサラの誕生日。サラには内緒で、ジムと一緒に来てもらい、サラの誕生日プレゼントを選んでいました。気づいたらもう5時になっていました。サラはどれくらい待っていたのだろう？

サラに電話してとにかくあやまろう。誕生日プレゼントのことは驚かせたいので絶対に秘密です。



サラがトムを待っていた時間

②（電話は続いています。あなたから話かけます。）

サラには悪いことをしたので、週末に映画「クッキーズ」を見に行こうと誘いましょう。

映画に行くことになった日	見ることになった映画

③（あなたから話しかけます）

次の日になりました。いよいよ今日はサラの誕生日。あなたは学校でサラを見つけました。サラのところに行って話しかけよう。そして、ジムに手伝ってもらって選んだプレゼントをサラに渡しましょう。最後に、待ち合わせにいけなかった本当の理由をサラに言おう。

あなたがサラにあげたプレゼント



この活動をするときの注意点：とにかくその人になりきろう！！

このシートに書いてないことも自分で考えて、英語で付け加えよう！

英語で言い表せないことは、日本語自体を簡単なものに変えて、それを英文にしてみよう。

「何してたの？」

シートA（女の子）

あなたは大学1年生の女の子サラです。あなたは同級生のトムと友達です。

今日はトムと映画「クッキーズ」を見る約束だったのに、トムは待ち合わせの4時に待ち合わせの映画館に来ませんでした。

①

あなたは待ち疲れて家に帰って着ました。今はもう5時です。友人には、なんとトムはユキと遊んでいたと聞きました。待ち合わせの時間に來なかったトムから電話がかかってきます。

待ち合わせに來なかったことや今いるところをトムに聞いてみましょう。

（トムから電話がかかって來ます。それに続けて問いただそう。）



トムが4時にしていたこと	
トムと一緒にいた人	
トムが今いるところ	

②（相手から話してきます。まだ電話中です。）

映画「クッキーズ」は今日が最終日です。今日はもう間に合わず、見ることはできません。しかし、トムの声を聞いていると少しだけあなたの怒りもおさまりました。代わりに、来週の日曜あたらしい映画「トランスフォーマー」を見に行こうと提案しましょう。

映画に行くことになった日	見ることになった映画



③

次の日になりました。今日はあなたの誕生日です。トムがあなたを見つけて話かけてきました。

トムの話の内容	
---------	--


資料⑤

振り返りシート


2年 () 組 () 番 名前

- ★活動名 (何してたの?)
- ★文法項目: (過去形 & 過去進行形)
- ・今日の活動を振り返って、下の表に○か×を記入しましょう。

項目	チェック事項	○ or ×
Completion (活動目標の達成)	・時間内に活動をできた。 ☆ (聞くべき情報を聞き取れた。 (言えた))	
Message (意味内容の伝達)	◎ トムが何をしていたか聞くことができた。 ◎ どの映画にいつ行くか決められた。	
Negotiation (意味のやりとり)	・わからなかったことや知らなかったことを、聞き返したり質問したりした。 ・意見が違うときは二人で相談して決められた。	
Structure (構造の比較)	♪ 過去進行形を用いて相手が何をしていたか聞くことができた。 (過去進行形を用いて何をしていたか答えられた。) ♪ 過去形を用いて過去にしたことやしなかったことを言えた。 (聞くことができた。)	
Information Gap (情報の差)	・自分が持っている情報を、全部相手に伝えた。 ・相手に質問して必要な情報を得ることができた。	
Interest (興味深さ)	・楽しく活動できた。	



言いたかったのに英語で言えなかったことを英語で書こう。




気づいたこと、思ったことを書きましょう。

振り返りシート


2年 () 組 () 番 名前

- ★活動名 (何してたの?)
- ・今日の活動を振り返って、下の表に○か×を記入しましょう。

チェック事項	○ or ×
・時間内に活動をできた。 ☆ (聞くべき情報を聞き取れた。 (言えた))	○
◎ トムが何をしていたか聞くことができた。 (自分が何をしていたか言うことができた。)	○
◎ どの映画にいつ行くか決められた。	○
・わからなかったことや知らなかったことを、聞き返したり質問したりした。	○
・意見が違うときは二人で相談して決められた。	○
♪ 過去進行形を用いて相手が何をしていたか聞くことができた。 (過去進行形を用いて何をしていたか答えられた。)	○
♪ 過去形を用いて過去にしたことやしなかったことを言えた。 (聞くことができた。)	○
・楽しく活動できた。	○



言いたかったのに英語で言えなかったことを英語で書こう。
提案する文?
Let's ~ How about ~?




気づいたこと、思ったことを書きましょう。
習った英文を用いて、自分自身の成長を感じた。
うれしう。

振り返りシート


2年 () 組 () 番 名前

- ★活動名 (何してたの?)
- ・今日の活動を振り返って、下の表に○か×を記入しましょう。

チェック事項	○ or ×
・時間内に活動をできた。 ☆ (聞くべき情報を聞き取れた。 (言えた))	○
◎ トムが何をしていたか聞くことができた。 (自分が何をしていたか言うことができた。)	○
◎ どの映画にいつ行くか決められた。	○
・わからなかったことや知らなかったことを、聞き返したり質問したりした。	○
・意見が違うときは二人で相談して決められた。	○
♪ 過去進行形を用いて相手が何をしていたか聞くことができた。 (過去進行形を用いて何をしていたか答えられた。)	○
♪ 過去形を用いて過去にしたことやしなかったことを言えた。 (聞くことができた。)	○
・楽しく活動できた。	○



言いたかったのに英語で言えなかったことを英語で書こう。
たれといっしょにいたか?
Who were you with?




気づいたこと、思ったことを書きましょう。
とてもむずかしかったけれど、ついにたのしう。

振り返りシート


2年 () 組 () 番 名前

- ★活動名 (何してたの?)
- ・今日の活動を振り返って、下の表に○か×を記入しましょう。

チェック事項	○ or ×
・時間内に活動をできた。 ☆ (聞くべき情報を聞き取れた。 (言えた))	×
◎ トムが何をしていたか聞くことができた。 (自分が何をしていたか言うことができた。)	○
◎ どの映画にいつ行くか決められた。	×
・わからなかったことや知らなかったことを、聞き返したり質問したりした。	○
・意見が違うときは二人で相談して決められた。	×
♪ 過去進行形を用いて相手が何をしていたか聞くことができた。 (過去進行形を用いて何をしていたか答えられた。)	○
♪ 過去形を用いて過去にしたことやしなかったことを言えた。 (聞くことができた。)	○
・楽しく活動できた。	○



言いたかったのに英語で言えなかったことを英語で書こう。
クッキーズは今日が最終日だ。
Today is the last day of "Cookies."



気づいたこと、思ったことを書きましょう。
とぎれとぎれに自然な会話を続けるのは、むずかしかった。文法が少しづつでも通じることが分かった。

面接にチャレンジしよう！(履歴書：ワークシート1)

Class No. Name

Personal History

Full Name	Man・Woman	
	Woman	
Birthday	May, 1994	age (15)
Address	〒920- Kanazawa, Ishikawa.	(TEL) (076) -

year	month	school background
2007	March	Kanazawa City Elementary School
2010	March	
year	month	license
2007	June	STEP English Proficiency Test, 4th Grade (Eiken)
2008		Kanken, 2nd Grade

The time spent in commuting:	h. 30 m.	Number of Family	4
------------------------------	----------	------------------	---

[Favorite Subjects]
- English, Social Studies

[Hobbies]
- To listen to music
- To draw a picture.

[Skills]
- Excel
- To play the trombone

[PR]
I have studied English hard because I've wanted to work at this company. I was a leader of the chorus club. I practiced to sing songs the best. I will work very hard.

資料⑥

※面接官はどんな質問を出すか、学生はどんな質問が出るかを予想してみよう。そして、面接官は、どのような答え方が返ってくるかを、学生はどのように答えるかを考えてみよう。



面接にチャレンジしよう！(想定問答集：ワークシート2)

Class No. Name

質問の順番	Questions	Answers
1	What's your name?	My name is
2	What do you think about this company?	I think that it's magnificent.
3	Why did you leave this company?	Because I heard many people put trust in this company.
4	How are you?	I'm fine. Thank you.
5	What subjects do you like?	I like English, math and P.E.
6	What's your hobby?	My hobbies are to use a computer and to listen to music.
7	What are you good at?	I'm good at using a computer.
8	What license do you have?	I have 3rd Grade of Eiken.
9	When did you get it?	I got it last March.
10	How often do you do that?	Every day.
11	When did you start to do that?	When I was 9 years old.
12	How old are you?	I'm 15 years old.
13	How did you come here today?	By bus.
14	When is your birthday?	It's April 5th.
15	What will you do if you enter this company?	I'll do all of what you say.

資料⑦

〔面接官のセリフ〕

1. 面接官は履歴書を持って、所定の場所に座る。
2. 司会者は、廊下にいる学生を中に入るように指示。
“Please, come in.”
3. 司会者は、座るように指示。
“Sit down, please. / Have a seat. / Take a seat / Be seated.”
4. 司会者は、相手の緊張を和らげるために歓迎の言葉を述べる。
“Thank you for applying for our company. We hope you'll do you best.”
5. 10の質問をすることを告げる。
“Now we'll ask each of you ten questions.”
6. 面接官は順番に質問をする。学生は質問に答える。
7. 会社に質問があるかをたずねる。
“Do you have any questions to our company?”
8. 司会者は、全員の質問が終わったら、終わったことを告げ、退出の許可を出す。
“That's all for our interview. Thank you for coming to the company today.
You can go out of the room.”

「面接にチャレンジしよう」
練習振り返りシート（本書に向けて）

Class _____ No. _____ Name _____

※今日の練習を振り返って、本書の面接をより良いものにしていきましょう。それぞれ次の点はどうか？ A～Dで自己評価をし、C、Dを選んだ場合は、具体的な改善方法を書いてください。

A…よくできた B…できた C…あまりできなかった D…ほとんどできなかった

ア. 面接官役と学生役共通項目

振り返り項目		具体的な改善方法
1. 相手の顔を見て話しましたか。	A (B) C D	もっとアイコンタクトをとり。
2. 相手に聞こえる声の大きさでしたか。	(A) B C D	
3. 人に頼らず自分でしっかりと話しましたか。	A (B) C D	何を言っていたか自分でしっかり理解する。
4. 練習に入るまでに、研費と協力して文を書いたり読みを確認したりできましたか？	(A) B C D	みんなを考えた。

イ. 面接官役

振り返り項目		具体的な改善方法
1. 希望した面接役ですが、選んだ責任を果たせましたか。	A (B) C D	実感がわいてきた。
2. 外資系会社の面接官として、英語の特徴（イントネーションやアクセント）を意識して話しましたか。	A B (C) D	ちゃんとわかりやすいように話した。
3. 原稿に頼らず、ときばきと学生役に話したり聴いたりできましたか。	A B (C) D	たくさん原稿を見てきたからしつかりを覚える。

ウ. 学生役

振り返り項目		具体的な改善方法
1. どんな質問にも積極的に答えましたか。	A B C D	
2. 日本語でなく英語だけで話そうと努力しましたか。	A B C D	
3. 一問一答ではなく、臨機応変に二つ以上の答えができましたか。	A B C D	

面接にチャレンジしよう！（評価用紙：その2）

Class ____ No. ____ Name ____

※他のグループの面接の様子を見て、良かった点、参考になった点、改善したらよい点を書いてください。個人名は挙げないで、グループに対しての感想を書いてください。
ただし、書く際には、①英語面について②面接態度面について、分けて書いてください。

Class ____ No. ____ Name ____	Class ____ No. ____ Name ____
② ____ さんのグループ	② ____ さんのグループ
③ 手で相手を指していて、分かりやすい。	④ 正確に、英語で答えられている。
② もっと相手を見て話した方がいい。	② 相手を見て話している。
① 質問をさらに、こんでいる。 (下ばが尻な)	① よく考えて、英語で答えている。
② 相手に質問があるが聞いていけなかったの、聞いた方がいいと思う。	① 答え方を少し変えている。
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

「面接にチャレンジしよう！」本書を終えて

Class ____ No. ____ Name ____

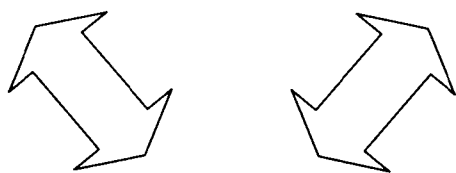
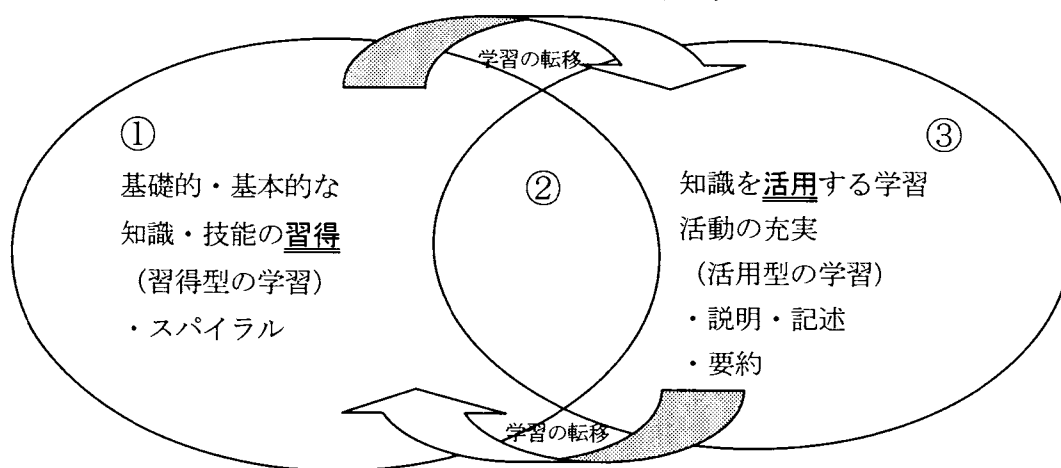
※練習の振り返りで書いた改善点を見ながら、今日の活動でそれがどの程度までできたのかを振り返ろう。

①英語面について ・ 相手の質問をちゃんと理解して、ちゃんと答えられたと思う。発音は、はっきりするように気をつけた。ただ、緊張して、棒読み口調になりそうだったので、さらに改善できると思う。また、会社側への質問が思いつかずにできなかったのが残念だ。答え方は、同じときは、too などを使えたが、答え方を変えた方がいいと思う。	②面接態度面について ・ 途中で他の人の笑うのにつられてしまったが、こらえた方がいい。声は大きくするように気をつけたが、緊張していさめになってしまったかもしれない。積極的に答えることはできたと思う。
--	--



思考力・判断力・表現力等を育む教育活動

英語（教科）の指導



総合的な学習の時間の指導

(知識・技能を働かせて＝活用して思考する活動)

